

瀬戸内海クルーズ推進会議
第一回全体会議 配布資料
(平成30年12月13日開催)

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会と 瀬戸内海クルーズ推進会議について

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会(通称:海ネット)

海ネットとは

「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」(通称:海ネット)は平成3年5月に設立され、瀬戸内海沿岸市町村相互の連携により、瀬戸内海の多様な資源を活かした人の流れを創り出し、防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興を図りつつアメニティー豊かな地域として沿岸地域全体の発展に資することを目的としている。

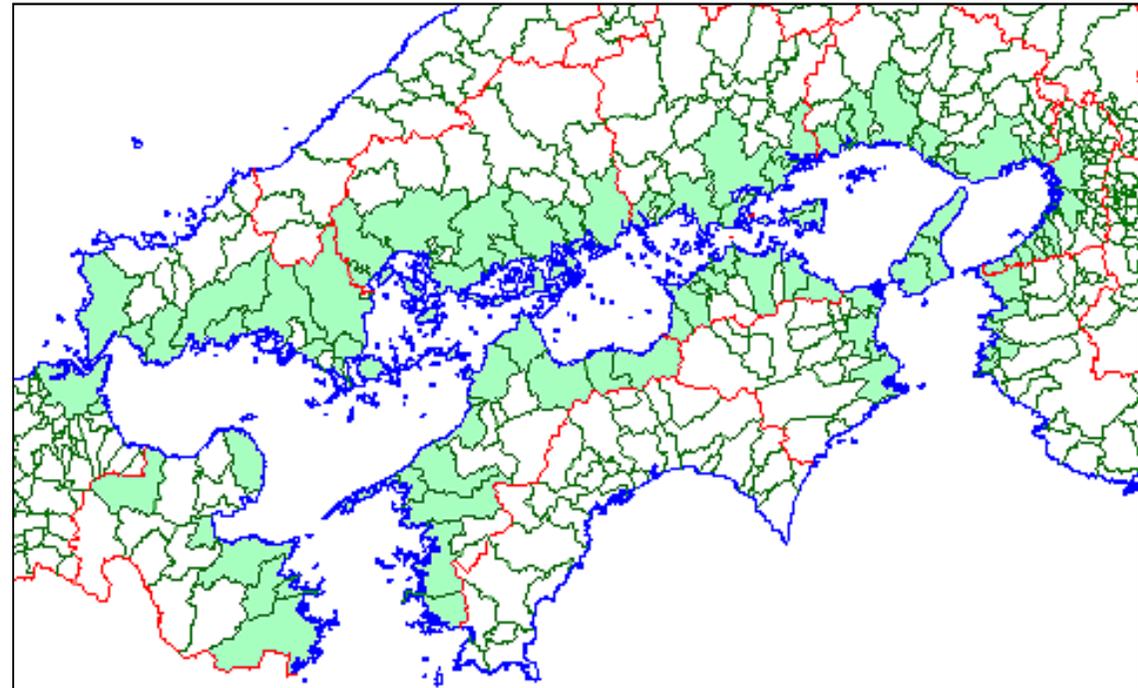
海ネットの活動指針

- 高速海上交通時代に対応した今日的意義のある「海の路の構築」、並びに地震津波に対応した防災ネットワークの整備
- 瀬戸内海の景観、歴史、文化、食、街並み等インバウンド観光時代における瀬戸内の魅力発信
- 失われた干潟、藻場の再生や災害、荒廃によるはげ山の修復等の瀬戸内海的环境創造

歴代会長

平成 3年～ 6年	姫路市長	(戸谷 松司)
平成 7年～10年	坂出市長	(松浦 稔明)
平成11年～14年	小松島市長	(西川 政善)
平成15年～18年	玉野市長	(山根 敬則→黒田 晋)
平成19年～20年	下関市長	(江島 潔→中尾 友昭)
平成21年～26年	大竹市長	(入山 欣郎)
平成27年～	和歌山市長	(尾花 正啓) ※敬称略

海ネット会員(127会員:平成30年6月1日現在)



- ・瀬戸内海沿岸の107市町村、
- ・11府県
- ・国土交通省9地方機関

「瀬戸内海クルーズ推進会議」について

設立の背景

- 瀬戸内海には数多くのクルーズ船の寄港が可能な港湾が存在するもののクルーズ船の寄港地が一部の港湾に限定されていること等、瀬戸内海全体としてクルーズ船寄港による各種需要をうまく取り込めていない状況である。
- 瀬戸内海のクルーズ振興についても、国、自治体、民間団体等が個別に取り組んできており、関係者が一体的にクルーズ振興するためのまとまった推進母体が存在しておらず、対外的に「瀬戸内海クルーズ」を発信する機能が不足していた。

設立の趣旨

- 瀬戸内海独自の魅力、特色を活かした独自のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海となることを目指す。
- その取組みを通じて当該海域・地域の振興を目指すとともに世界に誇れる主要な観光圏としての地位向上を目指す。

推進会議の設立

- 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の下に、会員及び民間団体等から成る「瀬戸内海クルーズ推進会議」(以下「推進会議」という)を設立する。

推進会議の構成員

- 推進会議は参加を希望する会員及び会員が推薦する民間団体等により構成する。
- 推進会議の事務局は、中国地方整備局、四国地方整備局、近畿地方整備局、九州地方整備局に置くものとする。なお、総括事務局は中国地方整備局とする。

推進会議の主な活動内容

- 瀬戸内海クルーズ振興のための施策提案
- 瀬戸内海クルーズの広報
- その他関連する業務

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 組織図

